

日本東洋美術史の資料学的研究^(シ02)

研究組織 小林達朗、小野真由美、塩谷純、二神葉子、城野誠治、小林公治、江村知子、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、吉田暁子(以上、文化財情報資料部)、早川泰弘(副所長)、津田徹英(客員研究員)ほか

目的 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究及び光学調査を進め、研究の基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

成果

1. 研究基盤となる資料整備

美術史研究のためのコンテンツ(日本美術史年記資料集成)作成として、平成11(1999)年以降の展覧会図録から年記のある作品の資料を順次収集して入力した。入力された資料は569件に達した。

2. 研究交流の推進

日本の美術工芸に関する研究会を4回行った(2021(令和3)年4月27日、5月25日、7月16日、2022(令和4)年1月25日)。所外の研究者による発表は以下の通り(所内の研究者による発表については、下記発表の項を参照)。

- 梅沢恵(神奈川県立金沢文庫)「辟邪絵」の主題についての復元的考察」令和3年度第1回文化財情報資料部研究会 21.4.27
- 山本聡美(早稲田大学文学学術院)「中世六道絵における阿修羅図像の成立」令和3年度第7回文化財情報資料部研究会 22.1.25
- 阿部美香(名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター)「六道釈から読み解く聖衆来迎寺本六道絵」令和3年度第7回文化財情報資料部研究会 22.1.25

また平安～鎌倉期にかけての仏画に関する調査研究の成果をオープンレクチャーで発表した。

3. 報告書の刊行

令和2年度に刊行した報告書『タイ所在日本製漆工品に関する調査研究－ワット・ラーチャプラディットの漆扉－』の英語版を刊行した。

論文

- 安永拓世：「与謝蕪村筆『十宜図』(川端康成記念会蔵)の史的位置」『美術研究』434 pp.35-62 21.8

発表

- 江村知子：「新出の住吉廣行筆「酒呑童子絵巻」(ライプツィヒ民族学博物館蔵)について」令和3年度第2回文化財情報資料部研究会 21.5.25
- 小林達朗：「皆金色阿弥陀絵像の出現とその意味－転換期の時代思潮の表象」第55回オープンレクチャー 21.11.5
- 米沢玲：「カナダ・モントリオール美術館所蔵の熊野曼荼羅図について」令和3年度第7回文化財情報資料部研究会 22.1.25

刊行物

- 『Lacquered Door Panels of Wat Rajpradit – Study of the Japan-made Lacquerwork Found in Thailand –』 22.3